

2009年8月18日  
繊維部会  
ブラジル日清紡 金原彰

## I. 共通テーマ 2009年上期の回顧と下期の展望

### 繊維業界の状況

ここ数年で最も厳しい上半期であった。下期は改善に向かうと思われるが、よくても前年同期並みと思われ、通期では前年比大幅な減収減益となる。

#### 1. 原綿

##### 1-1. 国際原綿

###### 1) 2009年上期の回顧

昨年のリーマンショックで70セント台から40セント台へ急落した NY 綿花先物相場はこの上期に入り、50セント前後の相場から徐々に値を上げ現在は60セント前後の相場となった。

今回の金融危機の混乱で Default 等が発生し世界で綿花商や紡績が潰れたというニュースや綿製品の最終消費の減退などから重い市況が続いていたが、ここに来て危機後の最悪の底値水準の時期は終わり、下げ過ぎた水準は是正されたように思う。

###### 2) 2009年下期の展望

2009年7月10日米農務省発表によると、2009/10年度の世界の綿花生産は106.0万俵、消費は112.6万俵、季末在庫は57.8万俵で在庫率は51.3%。前年度比、僅かな生産減、大幅な消費増、これに伴う大幅な季末在庫減(-4.1万俵)となる。

綿花相場は上記の実際の供給と需要によってよりも、投機マネーの動き、競合作物である大豆相場の動き、経済成長8%を見込んでいる中国の回復具合等に大きく影響されると思われる。

##### 1-2. 国内原綿

###### 1) 2009年上期の回顧

年明け早々、紡績の綿花買い付けで相場は上昇に転じたかに見えたが、世界金融、経済危機の影響もあり、綿糸需要の低迷が続き、綿花相場も冷え込み4月には、遂に2005年12月以来の安値R\$ 1.10/LB迄暴落した。その後、綿花生産者は、大豆を現金化して、綿花の出荷を控えたことにより、一時的に大きく上昇したが、新綿入荷迄、原綿不足の懸念は無くなり、相場はR\$ 1.20/LBを切る綿花生産者にとっては、不本意な展開であった。

###### 2) 2009年下期の展望

政府 (CONAB) は7月7日に、2009年の綿花生産量は昨年比24%減の121万トン、輸出は43万トン前後を成約済みと発表した。国内消費は充分賄える量と

見られ、相場が上昇する環境は今のところ見当たらない。

新綿の品質状況はまだハッキリしていないが、マイクロが高く、糖分が少ないと言われている。バイアが大雨の影響で生産減、品質低下が懸念されたが、それ程の損害もなく、マットグロッソ共に順調に収穫が進んでおり、7月末から8月始めにかけて市場に出て来ると思われる。

## 2. 綿糸

### 2-1. 国内綿糸

#### 1) 2009年上期の回顧

上期の国内綿糸市況は、昨年後半に米国に端を発した金融危機に起因する国内繊維中間業者の生産在庫調整による綿糸需給失調のあおりを受け、ここ数年で最も厳しい上半期(一時は2002年以来7年ぶりの安値)となった。

需要は昨年11~12月の最悪期からは回復したものの、短期間に大暴落した国内綿糸販売価格は4月まで元に戻らなかった。しかし、4月下旬から、これまで低水準で推移していた国内綿花相場が上昇傾向に入った事、とりわけニッターや生地商などのマーケット中間業者の在庫調整が進んだ事などで綿糸需要が増え出し、そのにわかなタイト感から長らく抑えられていた綿糸販売価格がようやく回復基調となり、6月度には大暴落前の95%程度の価格まで戻す事が出来た。

#### 2) 2009年下期の展望

7月に入り春夏衣料向け綿糸の本格的な需要期を迎えた。小売ベースでの秋冬衣料販売は寒波により好調に推移した為、来春夏衣料販売に大きな期待感がある。再燃したリアル高傾向から輸入綿糸の流入も懸念されるものの、ニッターの綿糸購入要求は底堅く、順調な販売となっている。問題は糸値をどこまで戻せるかである。

### 2-2. 空紡糸

#### 1) 2009年上期の回顧

今年の冬は寒さが厳しくなると予測し、5月まで増産を続けてきた企業がいくつかあった。予想に反し消費は伸びず、リアル高と国際金融危機の影響で輸出難の状況と併せて、上半期のオープンエンド糸の消費は大変低調なものとなった。そのため、供給過剰となり、空紡糸の価格は大幅な下落となった。

#### 2) 2009年下期の展望

空紡糸の分野に悪影響を与えて来た材料は変化せず、下期の市況は上期と同様な状況であろう。価格については、楽観的な見方はできない。市場が仮に大きく好転したとしても、低価格の輸入品が控えており、価格修復の可能性はほとんど期待できない。

## 2-3. 綿糸貿易

### 1) 2009年上期の回顧

上期の綿糸輸出は、1,192トンで、2008年上期実績を56.4%下回り半減した。綿糸輸入は、9,679トン、前年同期比65.5%減と急減した。レアル安による価格競争力低下の為である。輸出は国際市場の需要減退により、レアル安にもかかわらず減少した。その結果、綿糸貿易は、2007年以降、連続して赤字となっている。

2008年の綿糸輸入を急増させた輸入卸業者(インド紡績から纏めて仕入れ、小口織編業者へ再販売)は、レアル安の為、今上半期は殆ど輸入を停止した。一方、大手織編製造業者は、少量ながら細番手中心に輸入を継続している。

### 2) 2009年下期の展望

6月から再び為替がR\$2/US\$を切り、綿糸輸出は更に困難となる見込みである。綿糸輸入は、春夏物生産のピーク時期(9月～11月)に合わせてコーマ糸輸入を計画している織編業者がいるが、現在の為替であれば、昨年度のような大幅増加にはならないと予想される。

## 3. 織物

### 3-1. 薄地織物

#### 1) 2009年上期の回顧

世界的な金融危機による影響で、内外の需要は減退、対前年同期比、輸出・輸入とも減少した。

織物の生産は、やや遅れて11月頃から影響し、年初には先行き懸念から商談も進まず、操業度も低下した。輸出の減少や企業消費の減少で、各製造段階での在庫は増加した。

#### 2) 2009年下期の展望

国民の所得増加、企業業績の好転・金利の低下で、国内消費も上がると思われるが、在庫があるため、操業度が戻るまでは、もう少し時間がかかる見込み。

### 3-2. 紳士・婦人服地

#### 1) 2009年上期の回顧

紳士服の動きが年末から悪く、価格競争が一層激しくなり利益が取れなくなった。婦人服は業者間の冬物仕込ではスタートが良かったが、寒さの遅れで、追加までには至らなかった。振返れば例年になく非常に厳しい上半期だった。

小売業界は、5月末まで冬物が動かず、クリスマスと並んで売上げができる母の日の売上げを取れず、苦戦した。6月の恋人の日は寒くなり良く売れ一息ついた。

アパレルは、ドル高にも関わらず、ジャンパーなど冬物衣料の輸入量が増化し、相変

わらず競争が激しい、また寒さの遅れで追加注文も取れず、販売量を昨年比10～20%減らした所が多い。

輸入業界は、ドル高でコストアップし、国内市場は不透明で価格競争が一層激しく、販売価格を上げられず利益を取れなくなった。生地 of 輸入量は、20%程減ったが、既製服はドル高でも、約25%弱増加した。

## 2) 2009年下期の展望

6月には寒くなり景気が悪い中、冬物が良く売れ、小売の冬物在庫は消化できそう。4月までは売上減で5、6月で戻した所が多く、また為替も落ち着きを戻し、IPI減税の効果も出てきたし、下半期は消費が伸びるよう期待したい。ただ景気が底をついたとは思われず十分注意が必要。

## 4. ファスナー

### 1) 2009年上期の回顧

世界経済の悪化の影響が予想以上に国内経済、国内市場に影響、昨年第4半期よりアパレル消費が落ち込み、衣料品在庫の調整の影響下、衣料生産調整、ファスナー在庫調整が多くの顧客において進んだ。

分野別でみると衣料完成品の輸入増加の影響を受けたジャケット分野の動きが特に不調。同じく影響を受けた婦人服・紳士ズボン分野も前年を下回った。又 主力のジーンズ分野は主に国内生産が行われているが、上記の影響を受け、低調に推移した。

上期の販売は数量的には前年を割り込み、付加価値品の販売にて支えてきたジャケット分野向けファスナー、ジーンズポケット用ファスナーの数量の落ち込みから、前年を下回る販売金額で終わった。

### 2) 2009年下期の展望

ブラジル通貨の為替水準が上昇してきており、今後の輸入衣料増加反転への影響、ブーツ等、残された輸出商品の競争力の更なる低下も想定され、市場環境は引き続き厳しいであろうと推測している。

収益的には、輸入衣料の浸透とともに、国内生産衣料における価格圧力も強まっており、下期においても厳しいものと考えている

## II.業種別部会コメント

ブラジルにおいて部会各社は、世界金融・経済危機による底は脱したか？

状況	簡単な理由やコメント
(7人)はい脱した	①売値は戻らないが、販売量は4月～6月には危機以前に戻り、在庫は正常となった。 ②売値は4月で下げ止まり、6月にはかなり戻した。しかし、前年比ではまだ低い。 ③底は脱したとはいえ、輸出不振でまだ在庫が多い。 ④不振は危機だけの影響ではなく、構造的なものもあるのではないか。
(1人)いいえ	①個人消費が戻るのは、まだ先だと思う。

以上